

文部科学省補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」

2019年度 連携型共同研究 成果報告書

| | |
|-------|---|
| 研究課題名 | 工業地域の再生と「豊穰化の経済」 ー場所の記憶、ツーリズム、コミュニティ、エコシステムー |
| 研究代表者 | 小関 珠音（大阪市立大学 都市経営研究科 准教授） |
| 共同研究者 | 藤田 和史（和歌山大学 経済学部 准教授） 立見 淳哉（大阪市立大学 経営学研究科 准教授） |

研究成果

本研究資金を用いて、各研究者がそれぞれのフィールドにおいて調査を行った結果、研究課題として掲げた「豊穰化の経済」の具体的フィールド調査を実施し、研究成果を公表した。研究代表者（小関）は、本学と大学間提携及び部局間提携（先方：経済経営研究科、当方：都市経営研究科）を締結しているパドバ大学 Silvia Rita Sedita 准教授を招へい（2019年度 大阪市立大学 外国人研究者招へい事業）し、京都友禅染のデジタル化についてのフィールドワークを実施した。パドバ大学での招待講演を実施し、さらに国際学会にて研究成果（Ozeki & Sedita, 2020）を発表した結果（2019年度 大阪市立大学国際交流促進事業）、欧州の著名な国際学術誌への論文投稿に招待された。国内事例に関しては、共著にてベンチャー学会に研究成果を発表した（磯貝・小関, 2019）。本著は、都市における社会課題を起業機会と捉え、住民が活動する都市空間の新しい利活用方法を生み出し、地域住民の生活環境の改善や福利向上を実現するビジネスモデルを構築し、利潤を上げる起業家について論じたものである。さらに、山形や京都の繊維会社で、IoT やセンサーなどの最先端の技術を搭載した商品を開発し、事業再生に成功した企業のフィールドワークを実施し、近々研究成果を発表する予定である。

海外事例については、立見が、フランスについて、パリを中心としたアート市場の研究を行った。同市場に精通する元パリ第4大学のジャンマルク・ルギャール氏に複数回インタビューを行い、またフランスにおける研究動向に関する文献読解を進めた。現代アートは豊穰化の経済において様々な機会と役割を演じ重要性を増しているように見える。今日の産業は、ますます無形的で意味的な要素に価値の源泉を求めているように見えるが、現代アートは意味や象徴を生産する中核的な活動であり、その市場の仕組みを明らかにすることで広範なインプリケーションを得ることが期待される。

ところで、豊穰化の経済において地域は、様々な賦存する諸要素を資源として「発見し」結合させることで固有の文脈を構築することで、「コレクション形態」（豊穰化の経済に特徴的な価値づけ様式とされる）のもとで豊穰化されうる。地域の諸資源もまたそうして構築された地域の文脈（＝コレクション）に定位されることで豊穰化され価値づけられる。なお、上述のアートもそうした文脈を生み出す上でアートプロジェクトのような形で役割を果たしている。立見は、豊穰化の経済、価値づけの仕組み、地域の価値といったキーワードを中心に理論的な検討を進め、豊穰化の経済における価値づけの仕組みについては、7月のフランス政治経済学会（Tatemi and Yamamoto, 2019）と、12月の欧州組織学会（Tatemi, 2019）で報告した。また地域の価値と地域経済を主題に地域経済学会関東支部（立見・長尾, 2019）、地域経済学会大会（立見, 2019）で報告を行った。

藤田は、産業集積地域において、地元工業高校が人材育成・起業人材排出に果たす役割について、最盛期の1/2にまで規模を縮小しつつある長野県諏訪地域を事例に調査・検討した。卒業名簿から諏訪地域の工業高校機械化卒業の生徒の進路を分析し、少数ながらも卒業時点において家業を承継し、集積の維持に一定の役割を果たす生徒があることを確認した。また、これらの卒業生が一定期間を経過した後に、起業・独立創業を果たすなど起業家として成長をしているのか、現在追跡調査を行っている。今年度は、昨年度に続き複数年度の傾向を分析しており、同様の傾向があることを確認した。次年度は、この傾向が機械科のみのものか、他学科との比較を検討している。

| 著書名/論文名/発表タイトル 等 | 発表年 | 出版社名/掲載雑誌名/学会名等 |
|--|------|---|
| 磯貝・小関 (2019) 都市における持続的イノベーションに関する一考察—都市起業家 (アーバンアントレプレナー) の台頭とその機能— | 2019 | 日本ベンチャー学会, 2019 年 12 月 2 日, 広島産業大学 |
| Ozeki and Sedita, “The revenge of the kimono cluster: pathways to revitalize the cultural heritage through digitalization” | 2020 | Rethinking Culture and Creativity in the Technological Era, International Workshop 20th-21st February 2020 University of Florence |
| 立見淳哉 (2019) イノベティブ・ミリュー概念の拡張—産業集積へのコンヴェンションナリスト・アプローチ | 2019 | 『ジオグラフィカ千里』1 巻, pp. 9-30, |
| 酒井 扶美, 立見 淳哉, 筒井 一伸 (2019) 農山村における移住起業のサポート実態—兵庫県丹波市を事例として— | 2019 | 『E-journal GEO』15 巻 1 号, pp. 14-28 (査読有) |
| 立見淳哉・長尾謙吉 (2019) 認知資本主義と地域経済 | 2019 | 日本地域経済学会関東支部研究会, 2019 年 6 月 22 日, 専修大学 |
| 立見淳哉 (2019) 合評会: 立見淳哉『産業集積と制度の地理学—経済調整と価値づけの装置を考える—』ナカニシヤ出版 | 2019 | 進化経済学会「制度と統治」部会&「現代日本の経済制度」部会, 2019 年 11 月 2 日, 阪南大学 |
| 立見淳哉 (2019) 田園回帰と「もう一つの経済」—豊穡化の経済, 連帯経済との接点を探る— | 2019 | 日本地域経済学会第 31 回京都大会, 2019 年 12 月 7 日, 京都橘大学 |
| TATEMI, J. and YAMAMOTO, T. (2019) Intermediaries and design: Valuation process of the local products in Japan | 2019 | International conference of AFEF-IIPPE, in Lille University, 2019 年 7 月 3 日 |
| TATEMI, J. (2019) Intermediary and Design: Valuation process of Local Products in Japan. | 2019 | EGOS (European Group for Organizational Studies) and Organization Studies Workshop, Kyoto University, 2019 年 12 月 14 日 |